

消費者に届け! 農家がつなぐ 農と食



君津市認定農業者協議会 農業を次世代に つなげる取組

君津市認定農業者協議会（会員80名、鈴木芳昭会長）（以下協議会）は、平成7年、市内認定農業者が相互に連絡協議し、次世代へ継承できる魅力ある農業の展開を図るとともに、君津市農業の発展に寄与することを目的に発足しました。

協議会では、農業体験などの食育に関する事業を中心に活発な活動を展開しています。

特に、平成10年から15年以上継続している「枝豆収穫祭」は、毎年10月「体育の日」頃に開催し、君津市近隣からのリピーターはもちろん、アクアラインを使った首都圏各地からの参加者も多く、2日間で5千人を超える賑わいです。収穫する枝豆は、会員が地域の遊休農地で栽培した特産物である「小糸在来」です。

参加者は、約1mの荒縄1本で張れるだけの量を収穫できるので、「張りきってたくさん枝豆を持ち帰ろう！」と、あの手この手を工夫して一生懸命にしばっていきます。

また、平成15年からは、消費者や地元小学校の児童とともに5月の「田植え」や9月の「稲刈り」体験イベントを行っています。

農業体験を通して、食の大切さ、農業の役割などを子供たちや消費者に伝える活動を続けています。

一方で、「市内の子供たちに地元でとれたお米や特産物を食べてもらいたい。」との思いから、学校給食関係者との情報交換を行いながら、地元農産物を学校給食に提供し、より広く、地域農業への理解を得るための努力も積んでいます。

さらに、農業の魅力や感動を伝える「フォトコンテスト」を実施しています。入賞作品の多くは、田んぼや畑の中で子供たちの生き生きとした笑顔が輝いています。この笑顔が会員の日々の励みにもなっています。

協議会では、地域農業の担い手である認定農業者として、様々な食育活動を通じて、消費者に地域農業への理解を深めてもらうと共に、地域農業への理解が次世代の農業生産基盤の維持と後継者の確保につながっていくものと信じて活動を続けています。（市東）



小糸在来の枝豆収穫祭



田植え体験で奮闘する小学生

君津地区指導農業士会 「食と農」への 心を育む食育活動

君津地区指導農業士会（会員43名
杉谷一弥会長）では、地域と連携し、
次世代を担う子供たちに農と食への理
解を深めてもらおうと学校教育連携活
動に取り組んでいます。

活動の一環で、落花生栽培に取り組
んでいる学校などに出向き、種まきか
らの栽培、収穫作業までを支援してい
ます。

平成26年度は、富津市と袖ヶ浦市の
小学校各1校、富津市の保育所・保育



順番に落花生の種まき



紙芝居に見入る園児達

園の4カ所で実施しています。

5月には種まきの後に、自分たちが
まいた一粒の種が、成長していく様子
を「落花生の一生」と題した紙芝居を
見せながら、分かりやすく解説しまし
た。子供たちは「花は上に咲くの、
地面にもぐって実をつけるんだね！」
「葉っぱは夜眠るんだね！」と驚きの
声をあげていました。

千葉県の特産品である落花生の栽培
体験を通して、子供の頃から、土や植
物に親しみを持つ機会を提供すること
で、農業に関心を持ち、食べ物大切に
する心を育んでいきたいと考えてい
ます。

君津4市農村生活研究会 地元の子供達と絆を 深める食育活動

君津4市農村生活研究会（会員23名
能城かね子会長）では、地元の高校生を
対象にふるさと料理講習会として、地
域特産物を使った料理の技術伝承を
行っています。

平成25年11月には、県立天羽高等学
校3年生の特別授業で、米粉と牛乳を
利用したカステラやグラタンの実習指
導をしました。「米粉で簡単に料理がで
きた。家でも作ってみたい。」と好評で
した。

また、同年9月には、富津市竹岡小学
校で、永井敏子前会長を中心に、稲刈り
やご飯炊き・味噌汁作り・お飾りづく
りの体験指導と併せて食育紙芝居「一
杯のおみそ汁」を上演しました。「お米
を作る大変さがわかった」「炊きたての
ご飯っておいしいね！」との声が上が
りました。

いずれも次代を担う子供達に農産物
の素材そのものが持つ本物の味を伝え
て行きたいという思いで取り組んでい
ます。



(川名)



真剣に取り組む高校生



実習後は笑顔で試食！